

## 聖書のお話は他人事ではない

先週はペンテコステでした。今からおよそ2000年前に、礼拝に集まっていたお弟子さんたちに聖霊が降って来て教会が生まれました。教会の宣教が始まった。ペンテコステというのは、そのことを記念する日でした。先週は礼拝の中で使徒言行録2:1～13を読んで、この日に起こった出来事を皆で確認しましたね。ペンテコステの日に聖霊が降ってきたお弟子さんたちは色々な国の言葉を話し始めたのでした。その様子を見て、集まってきた人々は大変驚きました。今日の聖書箇所が含まれている使徒言行録2:14～42には、その集まってきた人々にしたペトロさんのお話が記されています。ペトロさんは聖書の御言葉からイエス様について説き明かしをしたんですね。人々はそのお話を聞くと、三千人もの人々がイエス様のことを信じて洗礼を受けて、お弟子さんたちの仲間になりました。こうして教会が生まれるわけですが、今日はそのペトロさんのお話を詳しく見ていきましょう。

お弟子さんたちに聖霊が降ってきた様子を見て、驚き、戸惑う人々にペトロさんは声を張り上げて言いました。「私たちはお酒で酔っ払っているではありませんよ。私たちのこの状態は、まさに旧約聖書のヨエル書で預言されていたことです。ヨエル書の預言通り、聖霊が降ってきたのです。皆さん、どうかこれから話すことを聞いてください。イエス様こそ神様から遣わされた救い主(メシア)です。このイエス様を皆さんは十字架にかけて殺してしまったのです。しかし、これも神様の救いのご計画の内であって、神様はこのイエス様を復活させてくださいました。そして、私たちの救いを成し遂げてくださったのです。復活したイエス様は天へと昇って行かれて、今は神様と共におられます。そして、私たちに約束の聖霊を注いでくださったのです。もう一度言いますが、皆さんが十字架につけて殺してしまったイエス様こそ、主であり、メシアです。」

ペトロさんのこのお話を聞いた人々は心を打たれ、「私たちはどうしたらよいですか」と尋ねました。これに対してペトロさんは、「悔い改めて洗礼を受けなさい。そし

て罪を赦していただき、聖霊を受けなさい。神様はあなたがたも、あなたがたの子供も、遠くにいる人も、すべての人をこの恵みに招いてくれているんですよ」と言いました。そして、三千人もの人々が洗礼を受けたんですね。

大切なのはペトロさんのこうしたお話の中で、イエス様のことが皆に関係するお話として語られていることでしょう。「あなたがたが十字架につけて殺したイエス様を通して、あなたがたも含めた私たちの救いが成し遂げられた」とペトロさんは言います。そして人々も、「わたしたちはどうしたらよいですか」と、イエス様の十字架を自分の罪、自分の責任として受け止めて話しています。誰もイエス様のこと、その十字架、また救いを他人事と考えてはいません。他でもない自分に関わるお話として受け止めて考えているのです。

こうした人々の態度から、私たちが学ぶべきことはたくさんあるように感じます。どれほど聖書のお話を読んで、イエス様のことを知っても、そのお話が他でもない自分に関わるお話だと思わない限り、神様の愛は伝わりません。たとえばイエス様の十字架のお話でも、「昔々の人々がイエス様を十字架につけたんだ」と他人事のように考えるのと、「罪深い私たち人間がイエス様を十字架につけてしまったんだ」と、自分たちの罪、責任として考えるのとでは、その意味合いは全く変わってくることでしょう。

クリスチャンというのは、聖書のお話を他でもない自分に関わるお話として捉える人たちのことを言います。聖書に描かれている人間の罪を、他でもない自分たちが持っている罪として考え、イエス様の十字架を通して贖われた、赦された、救われたのが、他でもない自分自身として考えるのです。また聖書に込められた一つひとつのメッセージを、自分に関わるもの、自分に語られているものとしてしっかりと受け止めます。

教会には毎週日曜日、たくさんのクリスチャンが集まってきますが、皆人生のどこかで「ああ、聖書のお話は他人事ではないな。自分を罪(悪いこと)から解放してく

れるなあ。また色々と大きな気づきや喜びをもたらしてくれるなあ。救ってくれるなあ」と気づいたんですね。そして神様に「おいで、おいで」と教会に招かれたのです。ですから、子どもたちも、またノンクリスチャンの方も、聖書のお話を自分に関わるお話として読んでほしいと思います。そして、「おいで、おいで」と教会に、また信仰に招いてくださる神様の御声に耳を傾けてほしいと思います。

毎日曜日、神様は聖書を通して私たち一人ひとりにメッセージを語ってくださっています。他の誰に向けてでもない、私たち一人ひとりへのメッセージです。その御言葉にしっかりと養われて、日々の生活を御心の内に過ごしていきましょう。今週も聖書の御言葉を糧に、皆で一緒に歩んでいきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——